

こまえ平和フェスタ 2024 を終えて

こまえ平和フェスタ実行委員会

2024年8月18日（日）、狛江エコルマホールにて開催された「こまえ平和フェスタ 2024」（第19回）には、300名を超える方々にご来場（出演者70名含）いただき、「子どもの権利が守られる社会は平和な社会」について考えていただけたかと思えます。ホワイエでは多くの市民参加による充実した展示等が行なわれました。展示は事前に中央公民館のショーケースで、事後は西河原公民館ギャラリーでも実施され、市民の方に観賞していただきました。



昨年に続くエコルマホール開催となった今年のテーマは「えがお ひろがれ！いのち かがやけ！一知ってる？子どもの権利」です。このテーマは日本が子どもの権利条約を批准して30年を記念したものです。狛江市でも昨年からの子どもの権利に関する条例の検討を始め、来年の制定を目指しています。平和フェスタが積極的な意味合いを持つ条例作成の一助になれば嬉しいです。

ウクライナへのロシアの侵略戦争が続き、イスラエルの常軌を逸したガザ侵攻で子どもたちが大勢犠牲になっています。国内でも米軍との共同指揮や基地機能の強化など日増しに強まっている中で、どのようにして平和な社会を創るのが問われる中での開催となりました。

情報保障として例年の手話通訳と文字通訳を行ない、保育も準備しました（希望者なし）。

ご来場いただいた市民のみなさん、そして賛同広告や事前・当日協賛金など物心両面でご協力いただいたみなさんの平和への想いを支えに、こまえ平和フェスタを無事に終えることができました。深く御礼申し上げます。今年も単年度収支でほぼ採算が取れました。本当にありがとうございました。市民手作りの平和フェスタを継続し、狛江市の平和文化の一端を担っていきたいと思います。

来年の平和フェスタは2025年8月31日（日）を予定しています。コロナ前のように会場いっぱいの来場者となるように頑張ります。なお、「こまえ平和フェスタ 2024」の詳細は（<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>）をご覧ください。

開幕宣言

子どもたちによる「これから、こまえ平和フェスタ 2024 を始めます。」と元気な開幕宣言。「会場のみなさん、準備は良いですか？」と問いかけ、笑いと拍手で始まりました。



開幕は合唱「虹をつなぐ」



♪みんなで虹をつないで、明日が今日よりずっと平和な世界になるように♪

作詞：坂本琴音 作曲：大熊啓 伴奏編曲：加集希世子

2022年度砧中学校卒業生の平和学習から生まれた詩に大熊啓実行委員長（当時）が曲を付けたオリジナル曲で、昨年初めて平和フェスタで歌われました。今年は開幕で「狛江ぞうれっしゃ合唱団」を中心に歌いました。

司会は「ミュージカル CoCo～」の田部谷道子さん。

佐久間実行委員長のあいさつ

「2005年に始まったこの市民の手作りによる平和イベントもすでに19回目になり、今回のテーマは子ども達です」子どもの権利条約を批准して30年を迎え、プレ企画として山下淳一郎先生（和光小学校教員・狛江在住）によるとても分かり易い勉強会を開いて、「子どもの声をしっかり聴くこと、それに向き合って応答することが一番大事なことで学びました。」それは相手を尊重し、地域へ国へと広げ、「世界の平和にも繋がっていく」と述べ、舞台と展示の紹介をしました。

松原狛江市長のメッセージ（西尾副実行委員長代読）

公務のため出席できないこと、開催の祝福ではじまり、平和都市宣言以来「平和の尊さを市民の皆様と共に共有し、次世代へと引き継ぎ、更なる平和の実現に繋いでいくための活動を推進」していること、「未来を担う子どもたちに平和の尊さを伝え、その思いを育むことが私たち大人の責務」と述べ、来場者が素晴らしい一日になるようにと結びました。

谷田部かずゆき市議会議長のあいさつ（宮坂良子副議長代読）

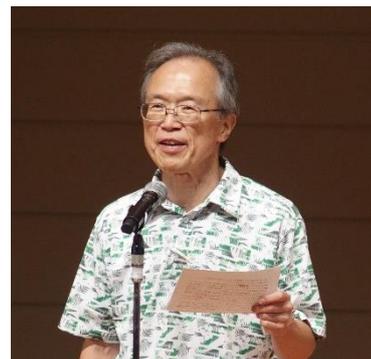
「人々が平和を願う気持ちは、いつの時代にあっても変わりません。しかし、ウクライナへのロシアの軍事侵攻、イスラエルのハマスの武力衝突など紛争が絶えず、「次世代を担う罪もない子どもたちは、人権尊重が叫ばれながらも、大人たちが起こす紛争に巻き込まれ、傷つき、亡くなっているのが現状です。人権が蹂躪（じゅうりん）され、多くの尊い生命が犠牲になっていることに、強い憤（いきどお）りを覚えます。」「世界中のすべての人々が、平和に生きていける世の中を願い、そのために自分たちにできることをしていくことが、何よりも重要」「『平和の尊さ』について考え、『語り継ぐことの大切さ』、『今の平和を享受できる幸せ』を再確認できる有意義な機会になることを願っています。」と結びました。

宮坂副議長からも「一市民といたしましても平和を守るために全力を挙げていきたいと思っています。」と一言ありました。

朗読劇「子どもの権利って何だろう？」

出演者は恵泉女学園中学校演劇部所属の古森愛美さん、池田帆希さん、福永茜里さん、吉永雪乃さんの4人に、脚本・演出の二階堂まり実行委員（俳優・教師）です。夏休み返上の10回の合同練習で、その都度ブラシアップしたそうです。

「子どもの権利条約」の成立から日本の批准は5年後の158番目、条約の概要とそれに該当する戦争や社会の動き、



特に、日本語で「意見表明権」と言われている言語は「View」であって、「泣いたり手足をバタバタして思いを表現してそれを考慮してもらえる権利」も含まれることを伝えていました。「こまえ・こどもの権利を考える会」が作られた経緯も。子どもの意見表明権に関連して、コスタリカの憲法裁判所への訴えが国際ジャーナリスト伊藤千尋さん（狛江在住）の著作から具体的で分かり易い事例として紹介されました。



日本でも戦後すぐに子どもの意見で国が動いたことがあるとして、二部で公演する「ぞうれっしゃがやってきた」の史実を紹介。戦争中に動物が次々に処分されましたが、生き延びさせたのは東山動物園の像が2頭だけ。東京の子ども議会で「ぞうが見たい！貸して欲しい」と決議され、ぞうに体力がないために、東山動物園にぞうを見に行く列車を走らせた話です。そして、ぞうが欲しいとタイとインドからぞうを贈ってもらい、インドから送られたインディラを北海道・東北17カ所を周る「移動動物園」という企画も行われました。

さらに、行動力があつたのは戦後すぐの子どもたちだけではない、最近の子どもも負けていないとして、高知県四万十川の河口近くにある下田地区で子どもたちが①保育所と小学校と中学校を高台に移してほしい②小中一貫校を作ってほしい。と、手紙を出したり署名を集めて四万十市長や市議会、文科省と子ども家庭庁に提出、「周りの大切な人を津波から守りたいです…。大人には子どもの命も意見を表明する権利も守ってほしいです！」周りの大人も協力して、保育所と小学校の高台移転を実現しました。いまま小中一貫校（小人数で生徒と先生の距離が近い）を求めて訴えています。

最後に、ユニセフが2020年に公表した「子どもの精神的幸福度」（生活満足度が高い15歳の割合・15歳から19歳までの自殺率）で日本は先進国38か国中37番目。同年代の出演者は「黙っていたらそれでいいんだと思われちゃうし、何も変わらないよね」「社会に対して言いたいことははっきり言わなくちゃね！」と結びました。



合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」（作詞：清水則雄 作曲：藤村記一郎）

演じるのは2006年、2015年に続く9年ぶり、3回目、一番豪華な演出となりました。指揮・演出は大熊啓、ピアノ・菊池リカ、フルート・古城鴻也、トランペット・山本郁夫 ソロで山本美桜（高校生：ぞう使いの娘）、高山正樹（俳優：動物園の園長）、奥村泰憲（音楽家：ネール首相）の各氏、さらにピエロと軍人が登場。それぞれにふさわしい衣装とメイク

を施しました。合唱団は子ども 10 人を含め 57 名、総勢 66 名での大合唱となりました。台詞を挟みながらの合唱で、戦前の楽しいサーカスから戦中に動物が処分される中で動物園が必死に守った 2 頭のぞう、戦争が終わり子ども達の願いに応じてぞう列車を走らせた物語を、涙あり、怒り・悲しみあり、そしてホッと。元気づけられ、平和の大切さを噛みしめる合唱でした。その様子を写真で感じていただければと思います。



♪サーカスがやってきたぞ！で始まる「サーカスのうた」に登場し、4頭のぞうを紹介するピエロとぞう使いの娘。

昭和 12 年(1937)、日中戦争が始まりサーカスより動物園の方が安全と、ぞうを動物園にゆずることにしましたが、ぞう使いの娘は嘆き悲しみます。「ぞうをうらないで」のソロ。♪観客の拍手 子ども達の歓声 あの喜びはもう無くなるのですか ぞうを売らないで … 私と一緒に売ってください♪



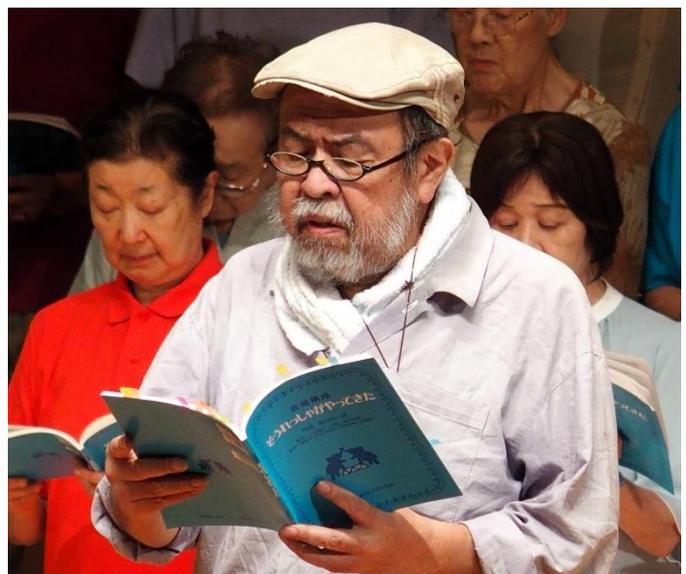
4頭のぞうが冬の街に雪の降る中を歩いて、動物園に移動します。
♪娘たちは寒さを忘れ コートをぬぎ ぞうたちに掛ける♪



動物園にぞうがやってきたことを喜ぶ子どもたちの声♪サーカスのぞうだから 曲芸もできるんだ
 … 動物園にようこそ ようこそぞうさんたち ぼくたちいつまでも なかよしでいよう♪



戦争が世界に広がり、危険な動物は殺すようにとの命令が軍から動物園に下されます。園長のソロ
 ♪ どうして動物を殺すことができよう♪ 殺さなければしかるべき手段をとるぞ！と軍人。市民も♪
 動物を殺せ！殺せ！殺せー！♪
 そして次々と殺されていく。園長
 ♪ 動物たちよ許してくれ 握りしめた私のこぶしの 震えが止まらなかった♪





ぞうはまだ殺されずにいました。ぞうだけは何としても守りたい、と餌を探し回りましたが、寒さと飢えで2頭は死にました。残りの2頭に♪おまへたちは 生きてくれ 生き続けてくれ 平和な日々が来て また子ども達と 遊べるその日まで♪



長い戦争も終わり、2頭は生き残りました。東京の子ども議会で「動物を見たい」
♪だけど動物園には…紙に描いたぞうが 風に揺れていた♪ 名古屋の動物園に生きているぞうが
いるとした知った子ども達はぞうが見たいと東山動物園の園長にお願いに行くことに。
しかし、戦争で弱ったぞうに旅をさせることは無理と、
♪住み慣れた動物園で暮らしているぞうたちを いつまでも優しく 見守ってあげて欲しい♪
しかし、子ども達の熱意は大人を動かし、子ども達を東山動物園に運ぶぞうれっしゃを走らせました。





「東京では、まだぞうを見たことのない子どもが10万人もいました」「やっぱり、上野動物園にぞうが欲しい！」と、インドのネール首相に沢山の手紙を集めて送りました。ネール首相は日本の子ども達のために一番すぐれた子ぞうを探し、娘の名前インディラと名付けました。

ネール首相のソロ：♪このぞうを贈ります インドの子ども達から 日本の子ども達へ 平和の願い込め♪ 大人になるとケンカをするが、やめさせなければならない、♪ぞうはとても賢くて 力が強くて…辛抱強く 優しい動物です♪ ♪あなたたちがいつか大人になったとき アジアと世界の平和と協力のために 手を取り合って 尽くして欲しいから 心をこめて インディラを贈ります♪



そして、最終楽章「平和とぞうと子どもたち」♪ワーイぞうだ！でっかいな！…♪ ♪人間の命を いくつかしむ心を 動物の命を いくつかしむ心を 子どもたちよ何時までも 忘れないで欲しい♪ 最後は舞台から手が振られ、観客席から盛大な拍手とブラボーの掛け声が掛かりました。

狛江市平和都市宣言朗読



全員合唱「水と緑のまち」



恒例の狛江市平和都市宣言を朗読劇出演の4人の中学生が朗読。エンディングは「水と緑のまち」の全員合唱となりました。「平和」を考え、満喫する1日になったでしょうか。



ハワイエでの展示風景



図書コーナー



折り鶴コーナー



「こまえ・子どもの権利を考える会」活動紹介
 展示は紹介している子どもの権利関係のほか
 に、紙芝居「戦争と泊江の子ども達」の活動紹介、
 川柳・俳句・短歌、絵手紙の応募作品、核兵器
 禁止条約関係、沖縄・広島・長崎の平和集会、
 沖縄・東京の米軍基地、「福島原発事故を忘れない」
 など多彩でした。

プレ企画「子どもの権利条約って何？」
 展示は 8/1-15 中央公民館ショーケースで、
 8/19-26 西河原公民館ギャラリーでも実施。

こまえ平和フェスタ実行委員会発行
<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>
web-mail@komae-heiwa-fes.clean.to

